



龍馬

学校教育目標

「あすをひらく」

令和4年度 小友小学校 学校報 No.20

令和5年1月16日

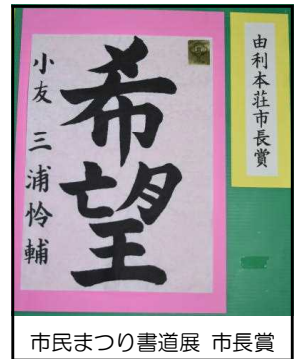
飛躍の年でありますように!

明けましておめでとうございます。

今年うさぎ年です。うさぎ年を調べてみると、「家内安全。新しいことに挑戦するのに最適の年。」とありました。皆様におかれましても安全で飛躍の年でありますようお祈り致します。

さて、冬休みに家族のためにお手伝いなどをして、「ありがとう」と言われた子どもがたくさんいました。家族の温かさが感じられてうれしかったです。これを機に家族の一員としての自覚が芽生え、進んでお手伝いできる子どもになってくれたらなあと思います。

今年も小友小学校へのご理解とご協力よろしく申し上げます。



栄養教諭による授業 (6年生)

12月下旬に、6年生が栄養教諭の牧野朋恵先生による家庭科の授業を受けました。

「こんだては、どのように立てたらよいだろうか。」という学習課題のもと、5大栄養素や、豆腐や牛乳などの食材がどの栄養素に分類されるかについて学び、献立作りも行いました。成長期である6年生にとって、タイムリーな授業となりました。



各種掲示で学習意欲向上

12月に、参考にしてほしい家庭学習ノートの掲示(各学年2~3)や、習字や絵の入賞作品の展示を行いました。よいノートや入賞作品を見て、さらに学習意欲を向上させてほしいと思います。



2月の予定

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-------------|
| 1(水) | 街頭指導 | 11(土) | 建国記念の日 |
| 3(金) | 新1年生体験入学・入学説明会 | 15(水) | 街頭指導 |
| 6(月) | 全校計算テスト 委員会 | 16(木) | PTA授業参観 キピー |
| 7(火) | なわとびチャレンジ集会 | 20(月) | 全校漢字テスト |
| 8(水) | 読み聞かせ | 23(木) | 天皇誕生日 |
| 9(木) | 学校運営協議会 | 24(金) | キピー |
| 10(金) | キピー | 28(火) | 6年生ありがとう集会 |

栄光の記録

秋田県児童生徒美術展

- <入賞> 1年 小松 楓
 5年 成田 幸夢
 <佳作> 2年 高橋 旺希 吉田 晴菜
 3年 大高 綾乃 菅原 真桜
 4年 三浦 壮 中村 絢
 5年 長田玲乃歩
 6年 吉田 綾 佐藤 尚稀
 白岩 泉織



がんばれ!山浅龍之介選手

1月6日(金)に、中日ドラゴンズの山浅選手が、名古屋への旅立ちを前に小友小学校に来てくれました。

タオル、色紙、サインボールなどたくさんいただきました。話していると、地域や母校を大切にすることが感じられ、とてもうれしかったです。

プロ野球での活躍を期待し、応援しています。



玄関ホールの特設展示

秋田県読書感想文コンクール 優良賞 作品

「いのちをくべつしない」
小友小 3年 大高 綾乃

「どうして男の子が生まれるならなべやフライパンをたたいてよろこぶのに、女の子が生まれるならしずまりかえるの。」この本を読み始めた時、わたしはとてもおどろきました。男の子か女の子かで、そんなに反のうがちがうなんて。でも、「今では、その村は、すっかりかわりました。」と書いてあってほっとしたし、どうしてかわったのかがとても気になりました。

この本を読んで、スンドルさんの住んでいるインドの村が、日本とは大ちがいなまじいくらいで、たいへんな思いをしていることがわかりました。毎日、遠くのいどまで水をくみに行くのは大変そうです。しかも、苦ろうして持って来た水はきれいではありません。また、どうやってどろをかためて家を作ったのだろうかと思いに思いました。初めは、昔の時代の話だと思ったほど、ちがう生活をしていたのです。

わたしがかわいそうだと思うのは、スンドルさんの家族が死んでしまったことです。スンドルさんが小さいころ、お母さんがどくへびにかまれて死んでしまいました。子どものスンドルさんは、かなしいときは、木にぎゅっとだきついていました。大人になってからは、上のむすめが死んでしまいました。スンドルさんは十二日間もなくて部屋にこもっていたそうです。スンドルさんはそういうかなしい体けんをのりこえているのがすごいと思いました。

わたしが一番感心したのは、スンドルさんの行動です。その村では地中から大理石をほり出すために、たくさんの土をほり出すので、あたりがどんどんあれ地になっていきました。そこで、スンドルさんは緑ゆたかな土地にしたいと思い、選挙に出て村長になりました。「女の子が生まれるなら百十一本の木をうえよう」と考えましたが、初めはだれも相手にしてくれませんでした。でも、分かってもらおうと一人一人にじっくり話をしました。女の子が生まれるなら木を植えるというスンドルさんの考えは、あれ地ももとにもどせるし、うまれてきた女の子と男の子をくべつすることもなくなるから、村の人たちがめぐまれます。みんなが幸せになる考え方だと思いました。

世界ではせんそうなどでたたかいがあって、へいしがぶきを使って他の国の人のいのちをとったりなくしたりしています。とてもかなしいことだと思います。どんなに意見がちがっても、相手を悪く言ったりきずつけたりしてはいけません。そうならないように、わたしも、周りの人との関係を大切に、こまった時は助け合っていきたいです。

いのちをくべつしないスンドルさんの行動を見て、わたしもくべつをしないで、どんな人のいのちでも一つ一つ大切にしていきたいなりました。男の子でも、女の子でも、日本人でも、外国人でも、みんながなかよくして、くべつやさべつのない世界にしたいです。

リナ・シン「百十一本の木」光村教育図書